

経営比較分析表（平成30年度決算）

栃木県 壬生町

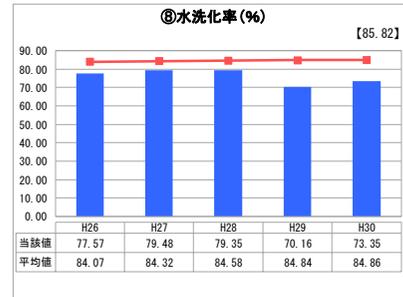
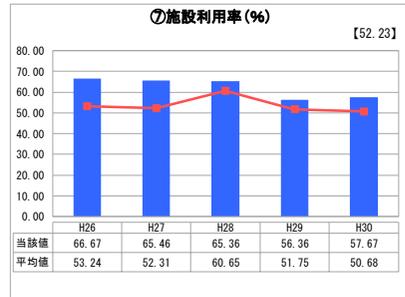
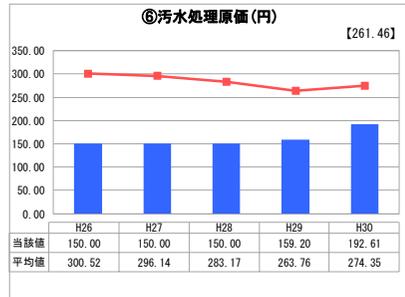
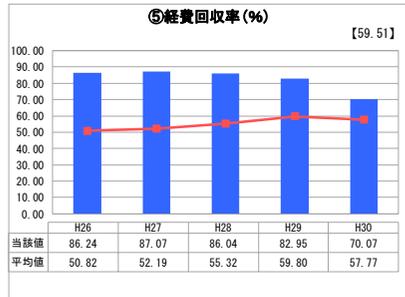
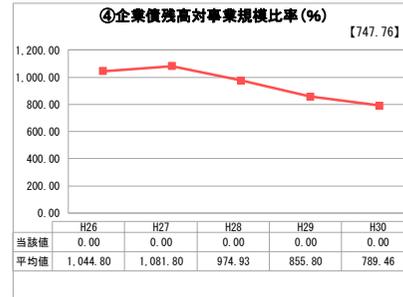
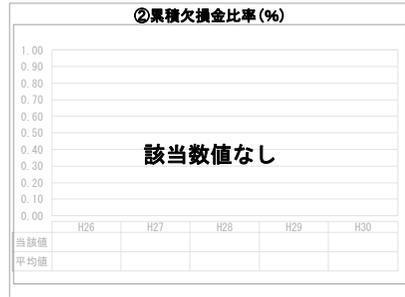
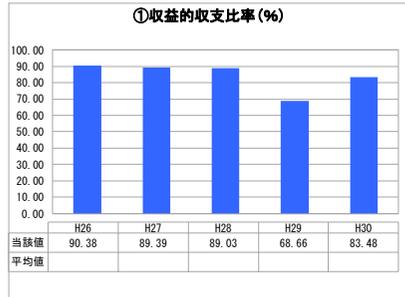
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	農業集落排水	F2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家賃料金(円)
-	該当数値なし	13.46	100.00	3,780

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
39,526	61.06	647.33
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
5,305	3.78	1,403.44

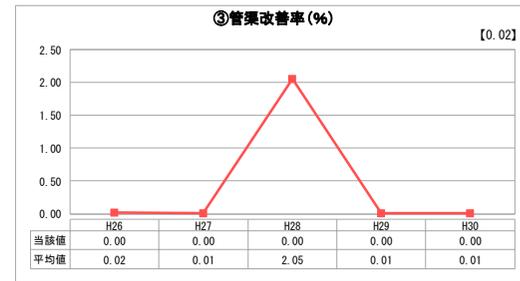
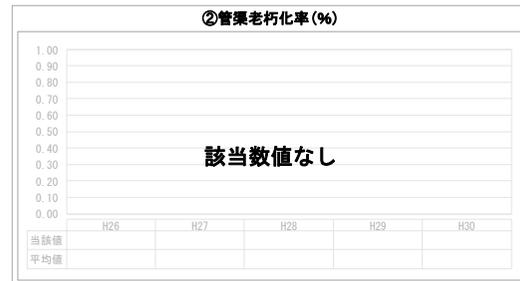
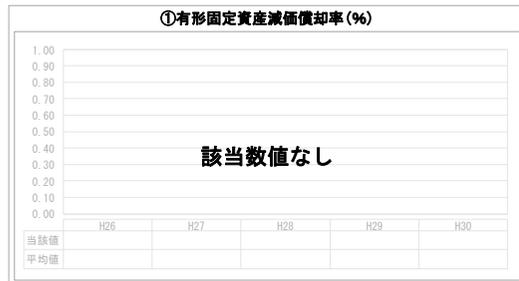
グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

収益的収支比率は平成29年度に繰上償還等により68%まで減少しました。平成29年度から供用開始した地区の接続率が低いこともあり、使用料収入だけでは経営が難しく、一般会計繰入金に依存している現状であるため、健全な経営に向けた取り組みが必要です。

経費回収率は昨年度から供用開始した地区の接続率が低いこともあり、使用料収入で汚水処理費をまかなえない状況が続いています。

汚水処理原価については、処理場などの施設に対し、適切な維持管理を実施していくことで、維持管理費の抑制に努めていきます。

施設の利用率及び水洗化率は、集落排水地区内の人口減少や接続率の低さも相まって、高い数値ではありません。適切な維持管理を行うためにも、水洗化率の向上に努めていきます。

2. 老朽化の状況について

管渠施設等は耐用年数には達しておらず、老朽化にはもう少し余裕があります。しかし、将来の対応を準備していく必要があるため、今後も老朽化対策について検討していきます。

また、処理場で供用開始から20年を超える箇所については、機器の修繕が多くなっています。予防保全の観点からも、計画的に機器の更新を検討して行きます。

全体総括

壬生町の農業集落排水事業は、令和元年度より生活排水処理構想における最後の地区に取り組みます。今後5年間は、新規地区の推進と既存6地区の維持管理を実施していくことになります。

農業集落排水事業を継続的に経営していくために、新規接続の啓発、料金徴収の徹底、修繕計画の最適化、また、公共下水への接続による施設の統廃合の検討などを実施し、更なる経営健全化対策を進めて行く方針です。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。